

豊庄だより



第 679 号 2021 年 9 月 27 日

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

9月21日は「中秋の名月」の日。今年は満月と重なりました（重ならない年もあります）。この日の合同朝の会で「今日の月は、中秋の名月と言って・・・」と話しました。そして、（話をした責任上、自分も見なくてはと思います）夜が来るのを待ちました。しかし、残念ながら雨。見ることはできませんでした。次の日は十六夜（いざよい）でした。19時を過ぎ外が暗くなってきたので外に出ました。月を探しましたが見つかりません。「ない！どうしたんだ月は！」と思いました。30分近く過ぎたでしょうか、東の方向にゆっくりと見えてきました。少しだけ欠けていましたが、真っ暗な夜空に黄色い光を放っていました。これは撮影しなければとカメラを取りに家まで戻り、シャッターを押しましたが、うまく撮れませんでした。三脚なしでは暗い中での撮影は難しかったようです。まだまだ写真の修行が足りないのを感じました。（※月の写真をここに載せようか迷いましたが、止めることにしました。）

次の日の朝早く、あの月はどうなったのだろうと思い、外に出ました。そして空を見て、探しました。月は西の空にいました。夜見た姿とは異なり、白っぽい姿をしていました。そしてだんだんとその姿は薄らいでいき、日の出とともにさらに薄くなっていきました。東の地平線から昇ってくる太陽、体を反転し西の空を見ると、太陽の光で次第に夜の輝きを失っていく月。ふと、万葉の歌人柿本人麻呂の歌を思い出しました。「東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ」です。たしか中学校の国語の教科書に載っていて、授業で教えた記憶があります。私は詩や短歌といった韻文は苦手で、うまく万葉の世界を伝えることができたかは自信がありませんでした。でも、この雄大な世界観は何とか伝えたいと思い、授業に取り組んだことを思い出しました。今、授業をするなら、暗闇の中から中秋の名月が地平線を登っていくこと、そして、次の日の朝、日の出とともに消えていくことを語るかもしれません。

さて、今週末はいよいよ運動会を迎えます。24日（金）には、2回目となる最後のリハーサルを行いました。1回目のリハーサルから2週間。ずいぶん上手になってきました。本番が楽しみです。

今回の運動会は、昨年に引き続きコロナ禍の中での開催となりました。感染予防のため、各クラス入れ替え制のプログラム、保護者の人数制限等、やむを得ないこととはいえ、考慮しなければならないことばかりの運動会ですが、今できることを精一杯やっというと思っています。



※9月16日に配布しました「運動会の実施方法について」を再度、お読みください。